

健康セミナーを実施して

北海道美唄市消防団

1 はじめに

美唄市は北海道空知地方の中央部に位置し、市内を南北に国道12号線とJR函館本線が平行して縦貫し、石狩川東岸沿いに発達した石狩平野があり、西部には石狩川の河跡湖群である湖沼が点在するほか、泥炭と呼ばれる寒冷地特有の湿地帯が多数みられます。東部は夕張山地につづく岳陵・山岳地であり、かつては石狩炭田の一部で豊富な石炭を産出し、道内有数の採炭地でありました。石炭の町として栄え最盛期の1950年代には人口は9万人以上を数えたが、閉山に伴い、人口も年々減少し現在では約2万5千人となっています。

主な市街地は国道沿線に発展しているほか、炭鉱により発達した旧市街地が点在しています。石狩川河跡湖群の一つである宮島沼はマガ

ンの飛来地として知られ、市内を縦貫する国道12号線は、日本の道路で最も長い29.2kmの直線区間でも有名であります。

また、国内でも有数の穀倉地帯であり、「ななつぼし」や「おぼろづき」等の北海道ブランド米を生産しているほか、北海道各地に先駆けて、美唄産米を用いた「米粉」の活用を前向きに調査・検討を重ね、市内の菓子店やパン屋では「米粉」を利用したオリジナル製品が販売され人気を博しています。その他にも美唄の名物と言えば「焼き鳥」が有名で、最大の特徴はレバー、ハツ、砂肝、内卵や皮などの鶏のさまざまな部位を竹串にさして焼く「モツ串」にあります。そのボリューム感とジューシーで深い味わいは昔から親しまれてきたふるさとの味となっています。



2 美唄市消防団の概要

明治36年に私設沼貝消防組が発足し、昭和24年には11団1,024名で組織していました。昭和47年に再編整備され、美唄市消防団1団体体制となり、現在は9分団団員256名で構成されています。当市においても団員の高齢化やサラリーマン化等により団員の確保が難しくなっており、近年では260名前後で推移しています。

こうした中、平成6年に「美唄市消防団キヤリ保存会」を発足させ、キヤリ等による伝統的文化、技芸を保存継承し、市民への防火思想の育成、普及を図るとともに、市民行事へ積極的に参加し、出初式では美消太鼓やマトイ振り、登梯等を披露し市民の防火意識の高揚など、消防団活動の理解と関心を高めています。

3 健康セミナー開催に至った経緯

現在では飽食の時代と云われ、生活習慣病や肥満に起因するメタボリックシンドロームが社

会的にも大きな問題となっています。公務外ではありますが、本団員においても体調を崩し入院や加療を受ける方が増加傾向にあり、生活習慣病予備軍の増加が危惧されるところです。例年は春と秋に消防職・団員合同訓練を行っていたのですが、今回は消防団員の健康管理と生活習慣病予防の知識の習得を目的として、「健康セミナー」を開催することに致しました。

4 健康セミナーを開催して

平成24年4月8日（日）旭川赤十字病院、看護部看護師長・岡田玲子さんを講師に迎え、消防団員・職員合わせて200名が参加し開催となりました。「消防団員の事故について」と「生活習慣病」をテーマに、公務災害発生状況や喫煙のリスクなどを分かりやすく丁寧に講義いただきました。また、用意して頂いた資料のチェックシートでは、食生活やストレスなどの現状が判定出来るようになっており、予防の重要性が再確認できました。中には、危機感を持った方



も見られ、受講された団員からは「喫煙は家族の健康にも影響があるので、・・・」など、多くの反響がありました。

5 今後の取り組みについて

「健康セミナー」は今回初めての実施でしたが、身近な問題で大変有意義な講習となりました。講習の資料にもありましたが、「平成17年～21年度の5年間で26人が亡くなっており、うち半数の13人は心臓疾患、3人は脳血管疾患が死亡原因であり、それぞれ肥満や高血圧など健康上の問題を持っていた。」という消防団員の公務災害の現状を重く受け止め、活動の前提として日頃から各個人が健康であることが、非

常に重要であることを学びました。そして事故防止についても細心の注意を払い消防団活動に精励していくことを胸に刻みました。

この「健康セミナー」を消防団員の安全管理の一環として開催し、当初の目的であった「消防団員の健康管理と生活習慣病予防の知識の習得」は達成出来ましたので、今後も公務災害防止のため、S-KYT（消防団危険予知訓練）研修や安全管理セミナー等の公務災害防止事業を継続して実施することを検討しています。

それぞれの想いは、今はこの北の大地、泥炭地に付いた一筋の轍だったとしても、それは積み重なり踏み固められ、やがては立派な道になって行くことでしょう。

